

各位

会社名 東京応化工業株式会社
代表者名 取締役社長 種市 順昭
コード番号 4186（東証第一部）
問合せ先 広報CSR部長 大橋 秀夫
TEL. 044-435-3000

TOK グループ中期計画についてのお知らせ

— tok 中期計画 2024（2022年度～2024年度） —

当社グループは、2022年度～2024年度（2022年12月期～2024年12月期）の3ヵ年を計画期間とする「tok 中期計画 2024」を策定しましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

■ tok 中期計画 2024（2022年度～2024年度）の概要 ■

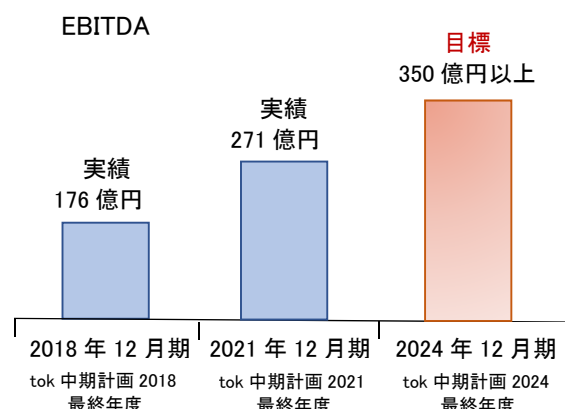
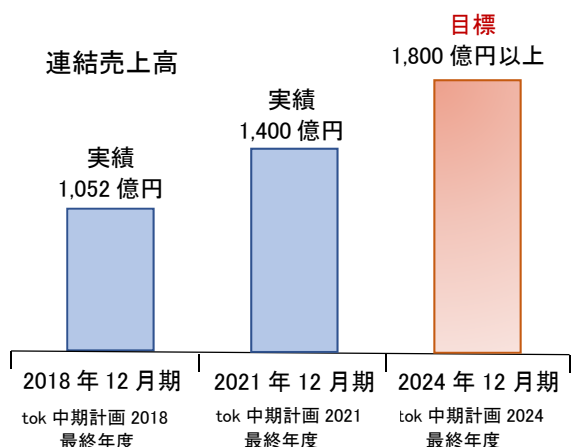
2030年に向けて“Boost up TOK !!”

業績目標（2024年12月期）

連結売上高	1,800億円/年	以上
連結営業利益	270億円/年	以上
EBITDA	350億円/年	以上
ROE	8.0%以上	を維持

経営ビジョン(TOK Vision 2030)

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company”



本中期計画では、当社グループの経営ビジョンである「豊かな未来、社会の期待に化学で応える“The e-Material Global Company”」の実現に向け、**5つの戦略**を設定しました。

また、本中期計画は、2030年ありたい姿「TOK Vision 2030」からバックキャストで設定した最初の中期計画であり、達成すべき通過点です。今回掲げた5つの戦略により、ありたい姿の実現に向けた盤石な体制を築き、その先の姿である100年企業を目指し、当社グループ一丸となって化学の力で社会の期待に応えてまいります。

1. tok 中期計画 2021 (2019 年～2021 年) の総括

激動する外部環境の中、成長軌道への回帰を果たす

2019 年にスタートした tok 中期計画 2021 は、他社との差別化を図るべく「オンリーワン、ナンバーワン企業を目指す」を全社方針とし、“2020 年ありたい姿”の計数目標を最終年度で達成する計画でした。しかし、tok 中期計画 2021 (期間 2019 年～2021 年) の 3 年間にわたって、外部環境は目まぐるしく変化しました。

2019 年 : 米中通商摩擦激化 / 半導体市場前年割れ (暦年ベース)

2020 年 : COVID-19 パンデミック

2021 年 : 半導体不足問題顕在化 / COP26 開催

このような中においても tok 中期計画 2021 目標に対し、売上高は目標レンジ上位を達成、営業利益及び ROE はともに目標値を上回ることができました。

定 量 目 標	tok 中期計画 2021 目標		2021/12 実績
	売上高	: 1,250～1,450 億円	➤ 1,400 億円
	営業利益	: 150～205 億円	➤ 207 億円
	ROE	: 8.0%以上	➤ 11.5%

2. tok 中期計画 2024 (2022 年 12 月期～2024 年 12 月期)

～5 つの戦略を通じて SDG s の達成に貢献～

(1) 先端レジストのグローバルシェア向上

当社グループの成長ドライバーでもある先端レジストのシェア向上を図り、The e-Material Global Companyとして確固たる地位を確立し、顧客の価値創造プロセスに貢献できる技術・品質・環境・付加価値を提供していく。

(2) 電子材料および新規分野でのコア技術の獲得/創出

100年企業を見据え、現在の事業の柱であるフォトリソ・高純度化学薬品に並び立つ事業の創出。

(3) 高品質製品の安定供給とグループに最適な生産体制の構築

外部環境の変化や、高度化・複雑化していく顧客要望に迅速かつ的確に応え、最適な生産体制の構築。

(4) 従業員エンゲージメントを向上させ人を活かす経営の推進

従業員一人ひとりの幸福度および生産性向上に向けた環境整備や個人の能力を引き出せる教育や仕組み作りを行うとともに、仕事へのやりがいと成長をサポートできる施策を実施。

(5) 健全で効率的な経営基盤の整備

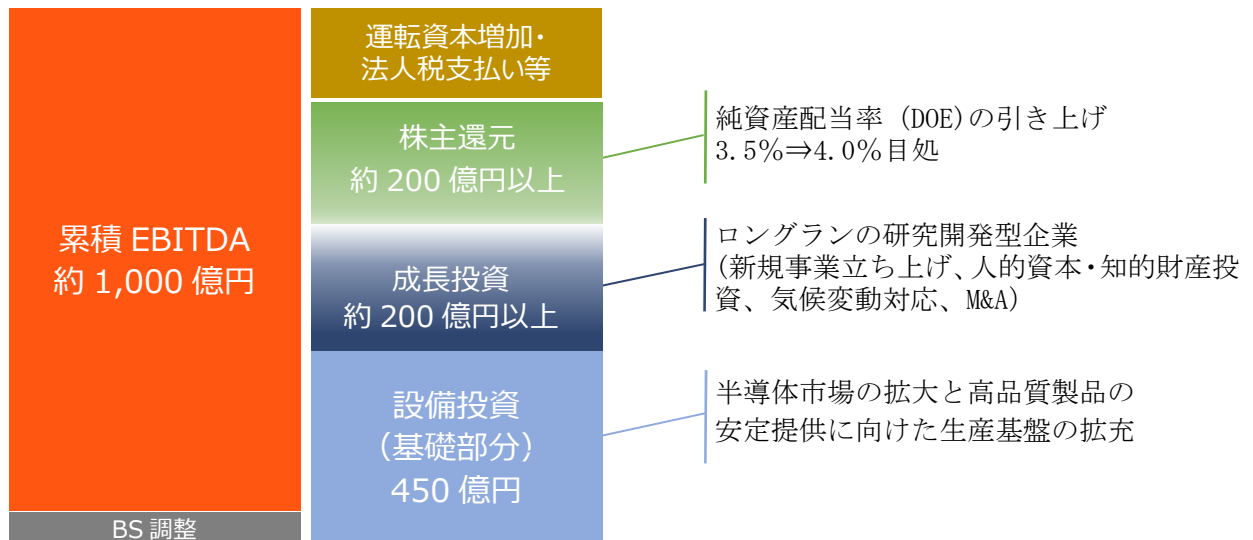
上記に挙げた4つの戦略を最大限のパフォーマンスで遂行し、当社グループをさらに発展させるための経営基盤の整備。さらに環境に配慮した生産、情報およびリスク管理、コンプライアンスを高水準で実現させ、当社グループ全体でのガバナンス強化を図る。
並行してスマート工場化やデータ活用に向けた社内のデジタル環境を整備し、変化し続ける外部環境に対応する。

3. BS マネジメント推進について

「投資」/「キャッシュリザーブ」/「株主還元」のベストバランスを図る

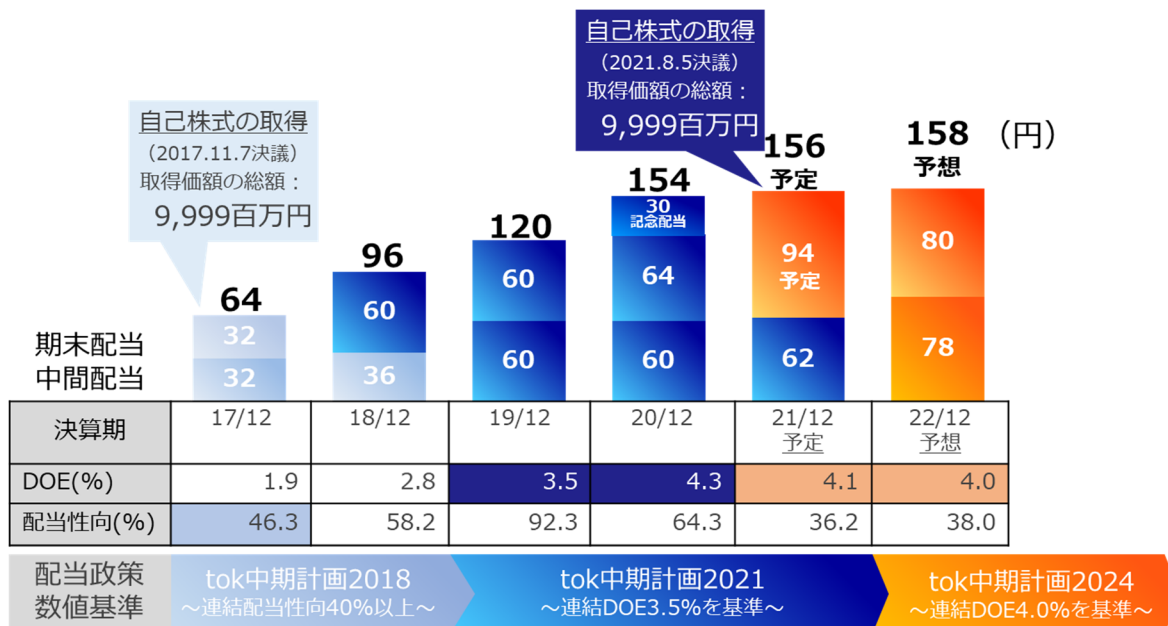
- ◆半導体材料の伸長により創出した EBITDA は、半導体市場の需要を見越した設備投資に当てると共に、優先的に成長投資に投下したうえで株主還元にも機動的に配分

(1) 3 カ年キャッシュ・フロー計画 (イメージ図)



(2) 株主還元・配当の状況

- 安定的かつ継続的な株主への利益還元を目的として配当方針を更新。
⇒新配当方針：純資産配当率 DOE4.0% を目処 (2021/12 期より)
- 株主還元策として自己株式の取得についても 弾力的に対処 する。



(ご参考として)

4. 2030 年ありたい姿 (TOK Vision 2030)

(1) 経営ビジョン

豊かな未来、社会の期待に化学で応える

“The e-Material Global Company”

(2) ありたい姿

定性側面

顧客が感動する新しい付加価値を提供する

世界のステークホルダーから信頼される

高い技術力を育成し続け、グローバルで存在感を示す

SDGs に貢献することを意識し、企業価値を持続的に向上する

皆が生き活きと誇りをもって働ける

定量側面

売上高 2,000 億円 (2030 年度)

EBITDA 450 億円 (2030 年度)

ROE 10.0 %以上 (2030 年度)

(3) 経営戦略

電子材料分野の深耕と開拓

100 年企業に向けての事業の柱が立つ為の新規事業創出

グローバル人材の活用

生産拠点のリノベーションによる新たな価値の創造

社会的な重要課題 (CSR、SDGs) への持続的な取り組み

財務基盤整備とその有効活用 「買える会社」「買われない会社」

デジタルトランスフォーメーション (DX) の推進



以 上